

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
家庭総合	2	3年・1類・A型 3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
****		家庭総合（実教出版）	おとなドリル・楽しく学べるマナーの基本

【 科目の到達目標 】

- ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。
- ・生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

【 評価の観点と方法について 】

- 1 家族・家庭に対して、関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。
- 2 学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。
- 3 自立するために必要な調理技術、裁縫技術、基礎的技術などを身につけることができる。
- 4 人が生きていくうえで必要な「生活」「マナー」にかかわる基本的知識を身につけ、理解することができる。実習態度・作品や課題の提出・ワークシート・定期考査等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1編「人とかかわって生きる」 ◆子どもとかかわる ・子どもを知る ・発達のすばらしさ ・子どもの生活	子どもの誕生、心身の発達と特徴を知る 子どもの食生活、衣生活、遊びについて理解し、実習に繋げ、体験を通し子どもや親への理解を深める	視聴覚教材や新生児模型等を用いて、生命の尊さ、親の思い、乳児の特徴や発達を理解する 児童文化財の製作、離乳食の実習、衣生活用品に触れ、子どもの生活を理解する	子どもの特徴や発達について基礎的知識を身につけている 実習の態度や意欲
	5	・ふれあい体験 ・親になることを考えよう ・健やかに育つ環境	子育てにおける親の役割について理解する 法律や制度を元にしたがら、子どもを取り巻く環境の充実を考える	離乳食や子どものおやつを作る 保育園見学実習でのふれあいで子どもの理解を深める 視聴覚教材や時事情報を元に、グループワークやディベートなどで考える学びを進めていく	児童文化財の製作と提出 意欲的に見学してレポート提出
	6	第3編「消費者として自立する」 ◆消費行動を考える ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会環境	消費行動において、意志決定のプロセスを理解する 契約、多様な販売方法や問題商法について理解し、対処法や解決方法を知る SDGsについて理解する	消費者であることを理解し、消費行動においては都度、意思決定が行われていることを理解する 消費者トラブルの解決法・ネットでの取引・トラブルの種類・消費者契約法などの法律・信用販売（クレジット）のしくみ等について理解する 持続可能な社会であるために、今自分にできることは何かを考える	プリント提出 おとなドリルに取り組む態度 積極的な意見交換ができる

一 学 期	6	◆経済的に自立する ・経済のしくみ ・ライフステージと 経済計画	18歳成人について詳 しく知る	持続可能な社会であるために、今自分 にできることは何かを考える	経済設計の作成
	7	◆社会に出てからの マナー①	面接	進路実現に向けた面接	受け答えや入退室のマナーなどを具体 的にを行う
二 学 期	9	◆高齢者とかかわる ・高齢社会に生きる 私たちの暮らし ・高齢者を知る	高齢社会の現状と課題 について学習する	現在の高齢社会、また将来的な社会の 流れを統計等から理解し、その課題に についても考え、理解する	高齢化の現状を理 解し高齢社会への 関心を高め基本的 知識を身につけて いる
	10	・豊かな高齢社会を 迎えるしくみ	高齢者の心身の特徴や 生活について理解する	実習などを交えながら高齢者の心身の 特徴や生活について理解し、積極的に 高齢者と関わる意識を高める	高齢者の食生活実 習での積極性
	11	・高齢者の生活と その課題 ・豊かな高齢期を迎 えるしくみ	介護保険制度のしくみ やサービスの内容、地 域住民間での助け合い の活動などを理解する	高齢期に関する制度、特に介護保険に ついて、なぜこのような制度が必要な のかを理解する	ワークシートや疑 似体験実習記録等 の提出
	12	◆社会に出てからの マナー② ・情報伝達	高齢者の経済・社会活 動等の現状を理解する	高齢社会を社会全体で支えるしくみを 理解する	レポート提出
三 学 期	1	◆社会に出てからの マナー③ ・将来の生活	自立・自律することを 理解する	高齢者がどのようなところで活躍して いるか、動画等で知る	インタビューのレ ポート提出
				◆社会に出てからの マナー③ ・将来の生活	挨拶・名刺の受け渡し の確認
				家庭科で学んだことのまとめ 将来どのような家庭人になりたいか、 その実現に向けて今できることを具体 的に考える	自立度チェック 積極的な参加態度

【その他】

- ・家庭総合は2・3年次の2年間（各2単位）で履修します。
- ・実習や演習をできる限り多く取り入れながら体験を通して学習していきます。
- ・さまざまな生活活動を想定しながら学んでいくことから、生きていくための総合力が身につきます。
- ・連続して課題に取り組むことも多く、休むことなく実習・演習に臨んでください。